

宮城県の農林水産業

東北農政局宮城県拠点
令和7年8月

農林水産省

写真提供：宮城県観光戦略課

はじめに

- ・ 宮城県は東北地方の東南部に位置し、奥羽山脈（西部）、北上山地（北部）、阿武隈（あぶくま）高地（南部）から流れ出る河川によってつくられた肥沃な仙台平野は、東北一の広がりを持つ豊かな穀倉地帯を形成しています。
- ・ 全国トップクラスの大区画水田整備率や、園芸栽培に適した気候と立地条件により、「ひとめぼれ」「ササニシキ」などのみやぎ米の生産とともに、いちごやパプリカなどを中心に園芸作物の生産と販売拡大に取り組んでいます。
- ・ また、宮城県が誇るブランド農産物の「ひとめぼれ・ササニシキ」を中心とするお米をはじめ、「仙台いちご」「仙台牛」など「食材王国みやぎ」の自慢の品々を全国に向けて発信していくとともに、競争力の高い園芸産地の確立や、先進技術の導入による生産性の高い農業等を推進し、多様な人材が農業現場で活躍する魅力ある農業の実現を目指しています。

データで見る宮城県の農林水産業・・・ 4

みどりの食料システム戦略・・・・・・・10

輸出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

G I・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

スマート農業の推進・・・・・・・・・・・・ 20

棚田・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

ジビエ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

6次産業化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

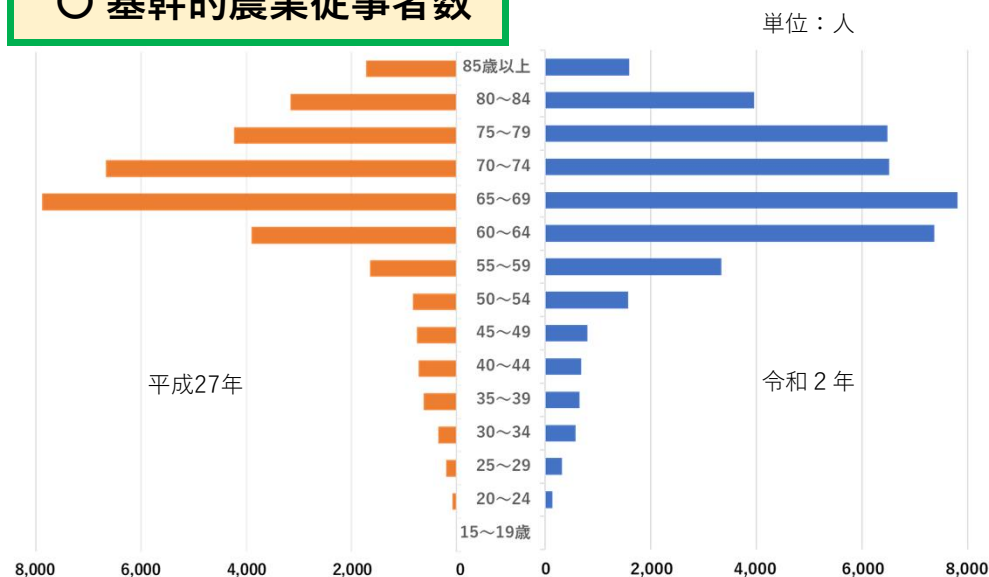
データで見る宮城県の農林水産業

○ 農業

区分	宮城県		全国順位
耕地面積	123,900	ha	8
田	101,700	ha	4
畑	22,200	ha	20
普通畑	15,600	ha	18
樹園地	992	ha	44
牧草地	5,630	ha	5
農業経営体数	30,005	経営体	11
法人経営	688	経営体	17
総農家数	41,509	戸	18
販売農家	28,632	戸	11

資料：「令和6年耕地面積（7月15日現在）」
「2020年農林業センサス（令和2年2月1日現在）」

○ 基幹的農業従事者数



資料：「農林業センサス」

○ 林業

区分	宮城県		全国順位
林野面積	407,710	ha	22
国有林	121,700	ha	14
民有林	286,010	ha	26
林業経営体数	489	経営体	27
法人経営	78	経営体	19
林業産出額	97.3	億円	16
木材生産	59.1	億円	15
栽培きのこと類生産	37.2	億円	18

資料：「2020年農林業センサス（令和2年2月1日現在）」
「令和5年林業産出額」

○ 水産業

区分	宮城県		全国順位
海面漁業漁船隻数	5,004	隻	5
動力漁船	1,447	隻	16
海面漁業経営体数	2,129	経営体	12
海面漁業就業者数	5,242	人	4
男	4,726	人	4
女	516	人	9
海面漁業・養殖業産出額	888	億円	4

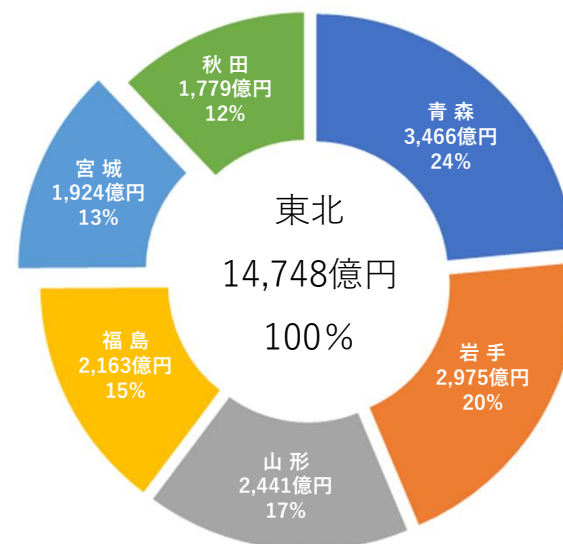
資料：「2023年漁業センサス（令和5年11月1日現在）」
「令和5年漁業産出額」

○ 農業産出額（全国、東北、宮城県）（令和5年）

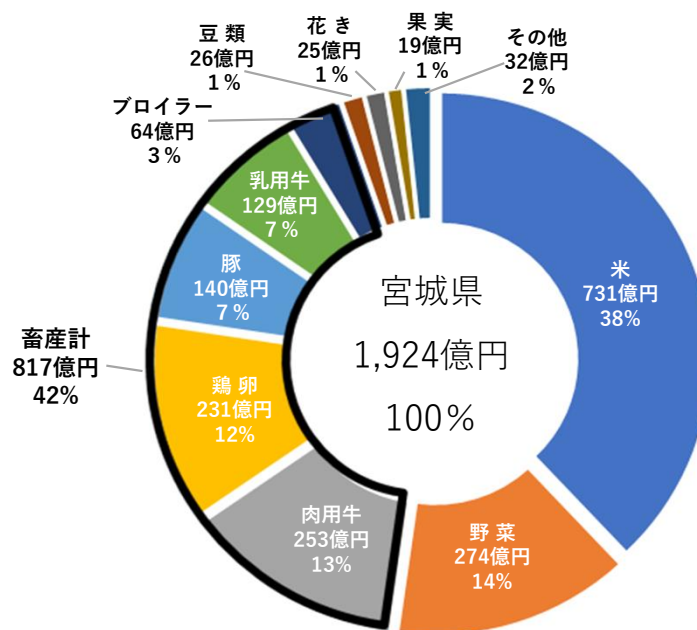
令和5年農業産出額（全国農業地域別）



令和5年農業産出額（東北）



令和5年農業産出額（宮城県）



注： 割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない。

資料：「令和5年生産農業所得統計」

○ 宮城県の農業産出額及び生産量の全国上位農産物

農業産出額
全国18位
1,924億円



米
全国 5 位
(産出額)
731億円



肉用牛
全国 5 位
(産出額)
253億円



乳用牛
全国10位
(産出額)
129億円



いちご
全国10位
(産出額)
67億円



大豆
全国 2 位
(産出額)
26億円



パプリカ
全国 1 位
(生産量)
1,470 t



せり
全国 1 位
(生産量)
417 t



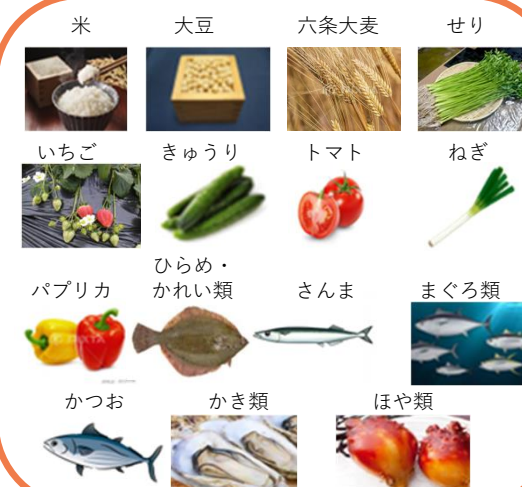
つるむらさき
全国 2 位
(生産量)
149 t



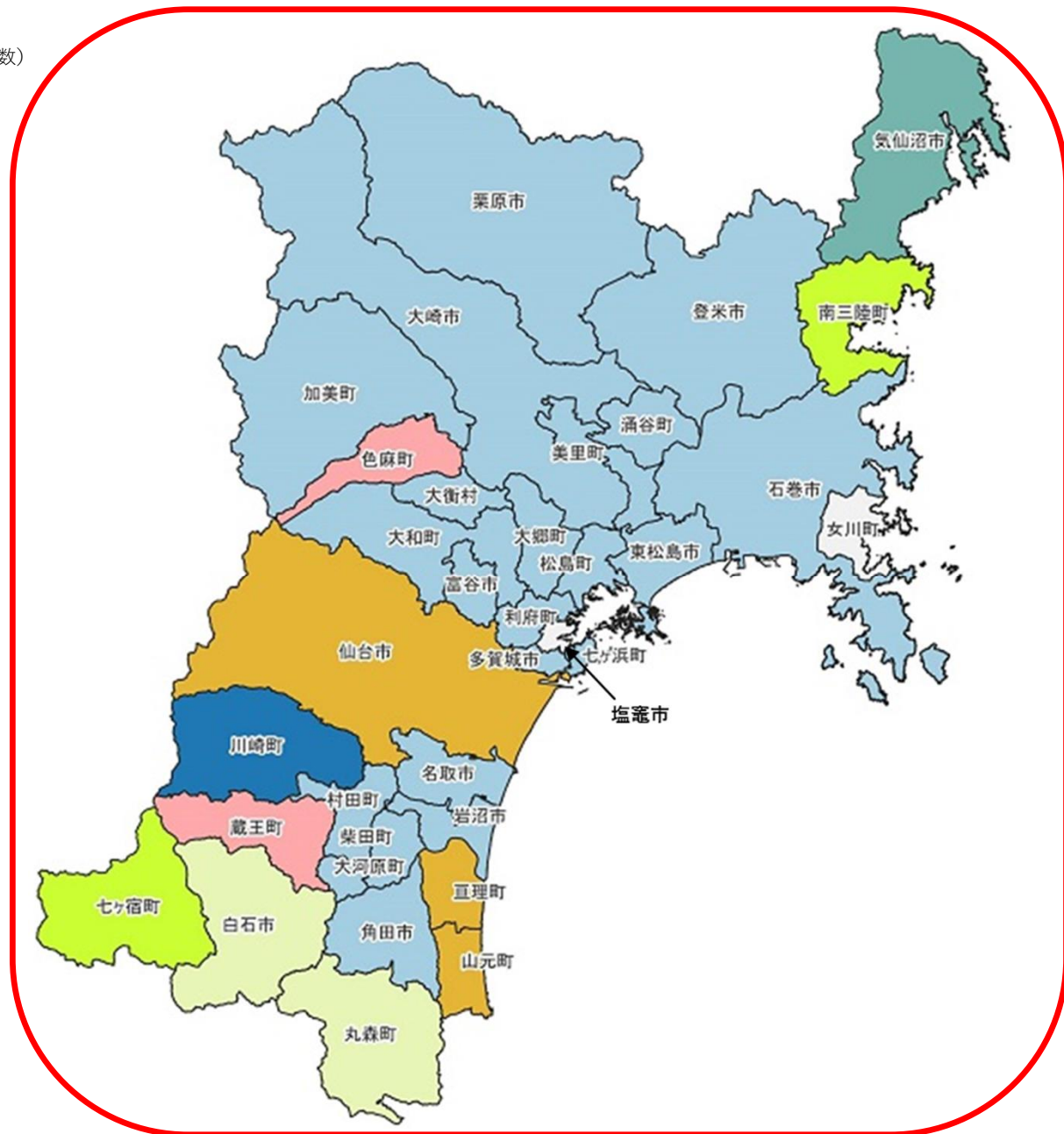
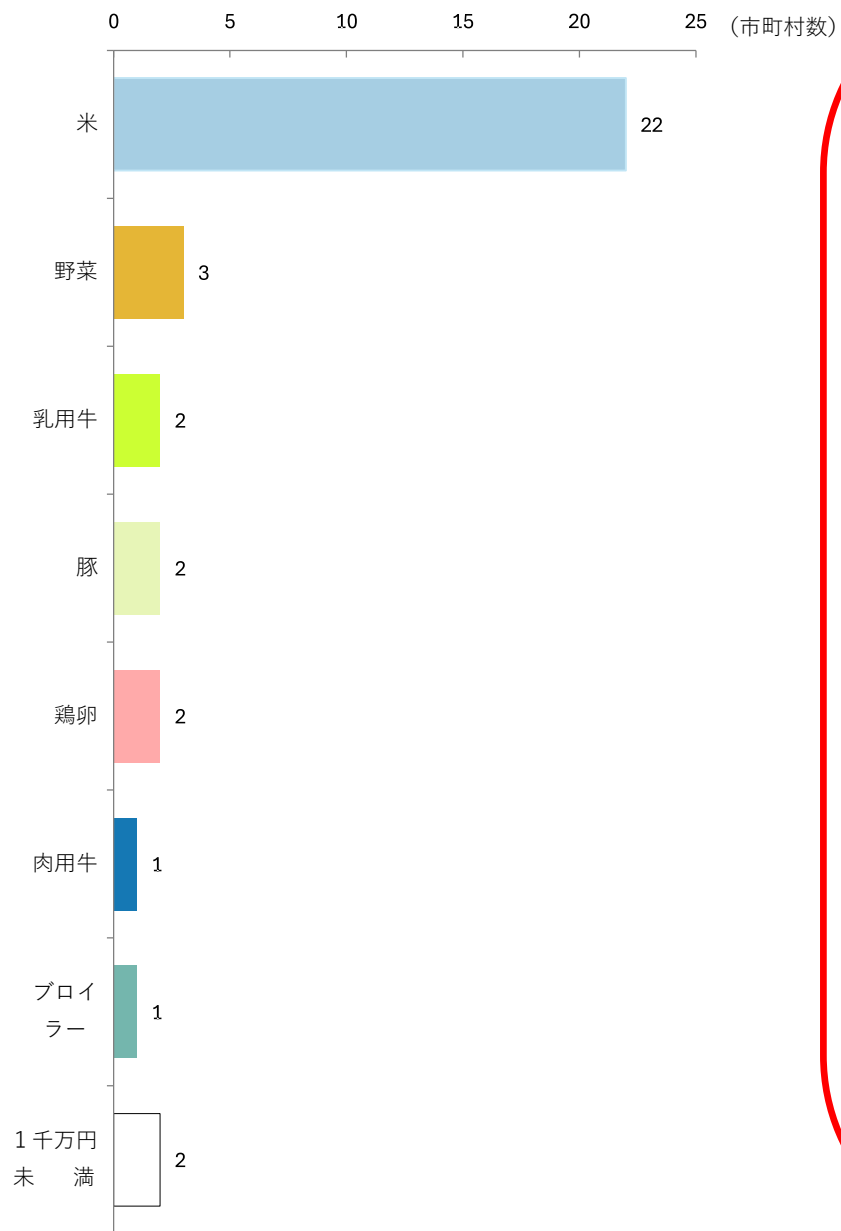
そらまめ
全国 6 位
(生産量)
447 t



○ 宮城県内各地域の主な農林水産物



○ 宮城県内各市町村の農業産出額 1 位部門の分布状況



資料：「令和 5 年市町村別農業産出額（推計）」

○トピックス：子実用とうもろこし栽培と「仙台牛」（耕畜連携）

・ JA古川（大崎市）は、新たな転作作物として子実用とうもろこしの栽培に取り組み、大豆や水稲との輪作体系の確立を目指し、農研機構やJA全農との連携のもと、令和4年産から令和6年産まで3年間の大規模実証試験を行ってきました。

3年3輪作（子実用とうもろこし → 大豆 → 水稲）（図1）に取り組み、子実用とうもろこしの10a当たり収量700kgを目指してきました。

令和6年12月から、国産子実用とうもろこし100%の配合飼料を与えたブランド「仙台牛」として販売を開始しています。

令和7年度以降は、小麦を組み込んだ3年4輪作に取り組めます。

資料：JA古川



図1 3年3輪作体系



（子実用とうもろこし真空播種機）



（コーンヘッダーを装着したコンバインで収穫）



国産子実用とうもろこしを使った配合飼料



みどりの食料システム戦略

～食料・農林水産業の生産性向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

- 我が国の食料・農林水産業は、大規模自然災害や地球温暖化、生産者の減少や地域コミュニティの衰退は、新型コロナを契機とした生産・消費の変化への対応などの厳しい課題に直面しており、農林水産業や地域の将来を見据えた持続可能な食料システム構築が急務となります。
- このため、**農林水産業は中長期的な観点から、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するため、令和3年5月に「みどりの食料システム戦略」を策定し、令和4年6月に中間目標を決定しました。**
- 令和4年4月22日に「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律（みどりの食料システム戦略法）」が成立し、同年5月2日に公布、7月1日に施行されました。

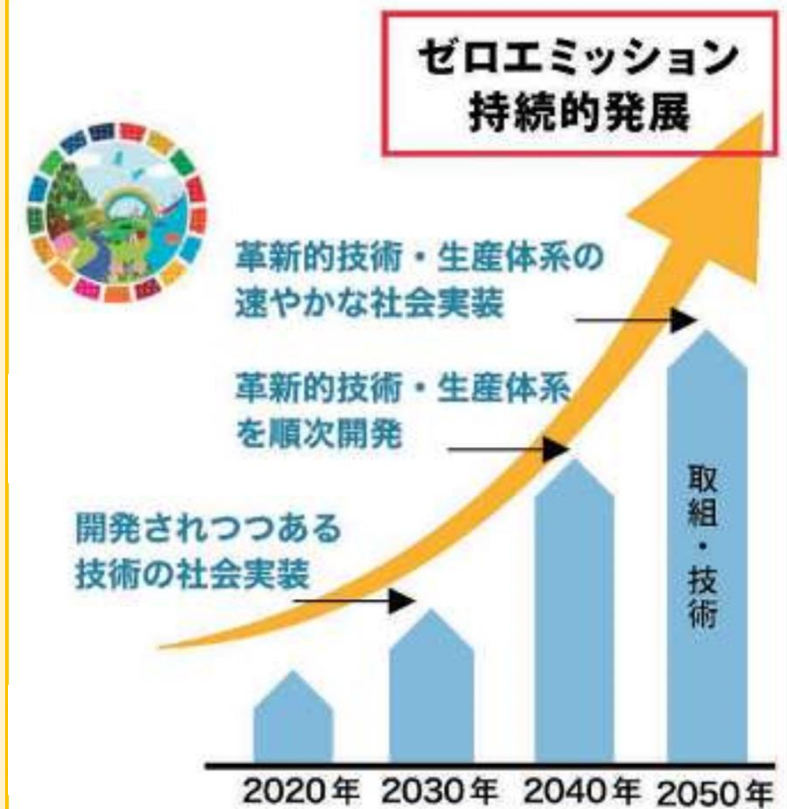
2050年までに目指す姿（2030年までの中間目標）

- 農林水産業のCO2ゼロミッション化の実現（10.6%削減）
- 化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減（10%低減）
- 化学肥料の使用量を30%低減（20%低減）
- 有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）に拡大（6.3万ha）
- 2030年までに 持続可能に配慮した輸入原材料調達の実現（100%）
- エリートツリー等を林業苗木の90%に拡大（30%に拡大）
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現（13%）等

目標の実現に向けて～政策手法のグリーン化

- 2050年カーボンニュートラル（脱炭素社会）の実現。生物多様性目標への貢献
- 国際的な論議（国連食料システムサミットやCOP26等）に貢献することにより、持続性の取組モデルを発信
- 地域の所得向上や豊かな食生活、コロナへの対応により、持続的な地域の産業基盤を構築

※ みどりの食料システム法により認定を受けると、資金調達（日本政策金融公庫による無利子・低利融資）や設備投資の初期負担軽減（税制の特例）があります。



資料：農林水産省

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

宮城県の農林水産業における環境負荷低減の取組事例

農林水産業における環境負荷低減の取組事例

調達 生産 流通・加工 消費

1 (株)東北バイオフードリサイクル 仙台市

メタン発酵処理残渣から製造したバイオ肥料の利用促進を進めています。



液肥：伊達のしずく 固形肥料：伊達のみのり

2 (株)かね久 仙台市

たこの皮など未利用資源を活用した持続可能な商品開発によるブランド確立とエシカル消費の普及を図っています。



3 (株)デ・リーフデ北上 石巻市

木質バイオマスボイラーと地中熱を利用したヒートポンプでパプリカやトマトを栽培し、化石燃料の削減を実現しています。



地元森林組合が製造した木材チップをボイラー燃料に使用

4 末永海産(株) 石巻市

牡蠣や帆立の端材を使用した商品開発により、付加価値化とロス削減を両立しています。



5 山徳平塚水産(株) 石巻市

さばの「あら」など利用されていなかった水産資源を活用した持続可能な商品開発に取り組んでいます。



6 (有)エヌ・オー・エー 登米市

GPS搭載の大型農機などを駆使した効率・省力的な耕畜連携により、資源循環型農業を実現しています。



7 登米町森林組合 登米市

人づくり・森づくり・森林資源の有効活用を通じ、地域社会の発展に向けた持続可能な林業に取り組んでいます。



8 JAみやぎ登米 登米市

約8,300haで環境保全米を栽培し、「みえるらべる」を活用した販売PRも行っています。



9 登米市有機農業推進協議会 登米市

学校給食への有機農産物の活用を促進しています。



有機米を使った学校給食

10 (株)宮城白鳥農場 栗原市

温室効果ガス排出を削減した水稻栽培(乾田直は栽培)に取り組み、みどり認定を受けています。



11 (有)ライスサービスたかし 栗原市

水田への堆肥施用による土づくりや化学農薬・化学肥料の節減に取り組み、みどり認定を受けています。



12 (株)東松島ファーム 東松島市

県内最大級の完全人工光型無人化植物工場で、燃油や化学農薬を使用しない生産に取り組んでいます。



13 大崎市土地改良区 大崎市

農業用水を有効利用した小水力発電により、再生可能エネルギーの活用を促進しています。



14 大崎市有機農業・グリーン化推進協議会 大崎市

有機栽培でアイガモロボットやスマート農業機器を活用した水管理を行い、環境負荷低減と省力化を図っています。



15 (株)こうだいらプランテ 大崎市

スマート農業やIPM技術を活用した環境負荷低減及び堆肥施用による土づくりなど、総合的な取組を進めています。



16 デリシャスファーム(株) 大崎市

規格外品のトマトを原料とした加工品開発により、魅力的な商品を提供しながら廃棄量を削減しています。



17 (株)ヒルズ 大崎市

ブロードキャストでも散布できるような低水分の堆肥を製造し、耕畜連携に取り組んでいます。



18 (株)一穂一笑 山元町

環境負荷の少ない品種や環境制御機器、IPM技術の導入による化学農薬の削減等に取り組んでいます。



日射比例かん水システム UV-Bによる病害虫防除

19 JA新みやぎ あさひなオーガニックプラント 大崎市

完熟発酵堆肥「郷の有機」を生産、流通させることで、資源循環型農業に貢献しています。



20 (有)大郷グリーンファーマーズ 大崎市

水稲・野菜で有機栽培を行っています。消費者との交流を通じて、環境に配慮した農産物への理解促進に取り組んでいます。



21 涌谷町 涌谷町

子実用トウモロコシの生産による飼料自給の強化を図っています。



22 安部陽一氏、陽介氏 栗原市

水稲・大豆で80ha以上の大規模な有機栽培を行っています。



23 (有)山藤運輸 南三陸町

食品残渣のメタン発酵消化液から製造したバイオ液肥を使った「めぐりん米」を生産し、「みえるらべる」を活用した販売PRも行っています。



温暖化への緩和・適応(宮城県)

試験研究や関係機関との連携により、取組を推進しています。

- 水稲での高温登熟耐性品種の導入と開発等
- 施設園芸での高温対策技術の導入
- 換気扇による送風、細霧冷房等による家畜の暑熱対策
- 藻場の再生
- 多様性に富む健全な森林づくり



宮城県のオーガニックビレッジ宣言市町村と 環境負荷低減に取り組むモデル地区

宮城県のオーガニックビレッジ宣言市町村

登米市



栗原市



大崎市



加美町



宮城県内の特定区域（モデル地区）

登米市（全域★）

- ・市内有機センターで家畜排せつ物から製造した堆肥の活用や消費拡大に向けた地域内流通の構築等により有機の農業産地としてブランド化を推進。

大崎市（全域★★★）

- ・ICTを活用した水管理システムやアイガモロボなどのスマート農業技術を用いて行う有機農業、環境保全型農業を促進。

（類型）

- ★ 有機農業
- ★ GHG削減
- ★ 先端技術の活用



涌谷町（猪岡短台地区★）

- ・農業者間の技術継承や慣行栽培を行う農業者との調整を地域ぐるみで行い、有機農業の生産団地の形成を推進。

美里町（南郷地区★★・中淬地区★★★）

- ・南郷地区では、水稻、麦及び大豆のブロックローテーション地区との土地利用調整を図りながら、有機農業の生産団地の形成を推進。
- ・中淬地区では、営農型太陽光発電を導入し、生産時の温室効果ガスの排出の抑制を図りながら、地域の農産物のブランド化を推進。

山元町（山下・坂元地区★）

- ・ICTを活用した環境制御装置等の導入によるいちごスマート園芸施設団地を形成

出典：農林水産省「特定区域（モデル地区）
の設定状況」
宮城県「みどりの食料システム戦略推進
基本計画の概要」から抜粋

第1回みどり戦略学生チャレンジ

- 農林水産省では、**大学生や高校生等の個人・グループが「みどりの食料システム戦略」に基づいた活動を実践する機会**として、「第1回みどり戦略学生チャレンジ（全国版）」を実施し、全国で402件の参加登録がありました。
- 各地方ブロックでの審査を得て34チームが出場した**全国大会の高校生の部**において、**宮城県農業高等学校の緩効性肥料を開発して実証実験を行った取組「Re:温故知新」が農林水産大臣賞を受賞**しました。
- また、**東北ブロックの大学・専門学校の部**において、**宮城大学の食堂で発生する食品残渣を活用した堆肥の製造と、公益財団法人と連携した小学生を対象とする堆肥の説明と施肥体験の取組「食品残渣由来の肥料を活用した玉ねぎの環境負荷低減栽培の取り組み～次世代を担う子供たちに伝える持続可能な循環型食料生産～」がグランプリを受賞**しました。

Re:温故知新

宮城県農業高等学校
代表 庄子 怜未

1 農家の悩み

地元農家から「肥料が高くて買えない」という相談を受け調べると54.7%値上がり（表1）しているため肥料削減の研究を開始しました。しかし肥料会社から「肥料を減らせば収量が減る」と言われます。そんな中、田植えで大失敗を犯します（写真1）。肥料無しで田植えしたのです。すぐに追加で肥料を与えますが結果として通常の3分の1以下しか肥料を与えなくても収量や食味がほぼ変わらないことが判明しました。この経験を元に、肥料削減の新しい栽培方法を構築しエシカル消費を目標としました。

表1 肥料費
写真1 肥料を忘れる

2 仮説の構築

何故肥料が少なくても収量がとれたのか。その原因は根にあるかと思ひかいてみると驚きの差がありました（写真2）。10倍以上の根が多かったのです（表2）。肥料削減のヒントは根の量にあると仮説を構築しました。根を増やすための新肥料開発スタートです。

写真2 根10倍
表2 根量調査

3 実証実験

根っこが多い理由は、最初に肥料を与えないことが重要でした。新肥料は失敗と同様に肥料の効果がなかったため、根を抜くと多くの発根が認められました（表3）。収量もかわりません（表4）。肥料がないため、養分を求めて根っこを伸ばします。根が一生懸命に生きるために伸ばすため「根の伸張効果」と名付けました。

表3 根量調査
表4 収量調査

4 啓発活動

水稲農家から「味は？」と聞かれ、食味の大会に出すと最優秀賞を受賞（写真5）。するとメディアから連絡を頂き、未来の栽培としてテレビで特集して頂き、これを見た農家さんから県内普及が始まりました。

写真5 味は一位

まとめ

1. 大失敗から肥料削減法を構築
2. 肥料費を78.2%削減した
3. 新肥料を開発した

大失敗から肥料削減法を見つけました。この栽培を全国へ広めれば、肥料は半額以上、500億円以上の経済効果を生みます。さらに環境負荷も圧倒的に実現し、ECOになりSDGsに該当します。

日本初の新肥料を肥料会社と開発しました！
新肥料を全国へ広め新たな道を開きます。

表5 肥料・労務費

食品残渣由来の肥料を活用した玉ねぎの環境負荷低減栽培の取り組み

～次世代を担う子供たちに伝える持続可能な循環型食料生産～
宮城大学食産学業群 代表 宮川咲良、保坂大、工藤皇崇、佐々木愛、相楽有輝、千葉亜香寧

目的

私たちは、小学生を対象に農作業の楽しさを体験するだけでなく食料生産の循環について理解を深める食育活動を行っている。本活動は、宮城大学と公益財団法人イオンワンパーセントクラブと連携して、イオンアースクラブの小学生に農業体験を提供する農場運営のもとで行っている。この活動の一環として、食品残渣由来製造した堆肥を玉ねぎ栽培に使用することで、みどりの食料システムへの「調達」における資源のリユース・リサイクルに向けた体制構築と「生産」における化石燃料由来資材の使用量削減に取組み、温室効果ガスの削減による環境負荷低減栽培の達成を目的とする。

取組内容・結果

①地域連携による食品残渣由来の堆肥製造

環境負荷低減栽培に挑戦する上で、まず食品残渣由来の堆肥製造に取組んだ。宮城大学太白キャンパス食堂では、学生への提供機会を確保する目的からプラスαの調理がなされており、必ず食品ロスが発生している。これらに食べ残しや調理くずを加えた食品残渣から堆肥を製造するべく、給食事業を行い業務用生ごみ処理機を所有している障害者就労継続支援B型事業所「ボッケの森」に協力を依頼した。ボッケの森は大学近隣にあり、7月23日から現在まで学生が分擔して食品残渣を運搬し、同事業所の生ごみを混ぜて堆肥を製造して頂いた（図1）。（夏休みを除く。）ボッケの森から出る食品残渣も含めた地域由来堆肥として、玉ねぎだけでなく来年度以降の農場栽培にも使用する予定である。

（結果）
10月31日までに合計49.95kgの食品残渣を運搬して、堆肥を製造してきた。製造した堆肥について成分分析実験を行い、植物の三大要素であるN、P、Kの含有量を明らかにした（表1）。また、玉ねぎ栽培において不足している成分を本学の木村教授の助言を参考に有機質肥料を混合して補うこととした（表2）。

表1 製造した堆肥の成分分析結果
表2 堆肥する肥料の種類とその量（3aあたり）

②堆肥を活用したタマネギ栽培における「環境負荷低減の「見える化」

農林水産省の「環境負荷低減の「見える化」」で星ラベルの獲得して、子供たちと共有することで容易に環境問題の改善に貢献できたとして食育の効果が高いと考えた。私たちはタマネギの露地栽培を行い「温室効果ガスの削減貢献率5%以上」を目標に掲げて取組みを始めた。

（結果）
表3 堆肥の製造によって削減されるGHG排出量（CO2換算）

表3の前提条件
・温室効果ガス（GHG）簡易算定シート（Ver.1.2）に基づき作成。
・10/31現在の数値は、表2の肥料3つのみを算定シートに入力して算出した暫定値。
・今後は、栽培管理において資材や燃料の使用でプラスに推移していくと推定。

③イオンアースクラブの子供たちとの活動

10/27のイオンアースクラブ活動内容として、今回の堆肥についての説明と施肥体験を実施した。説明は、肥料の必要性や食品残渣から堆肥ができるまでの過程の資料を紙芝居形式で作成した。小学生でも分かりやすいよう言葉をかみ砕いたり、クイズを行ったりして楽しく学べるような工夫を取り入れた。施肥体験については、子供一人分ごとに小分けの堆肥を配布し、玉ねぎの栽培区画に散布した（図2）。

（結果）
当日は、18人の小学生が参加した。普段、見ている食べ物が堆肥の製造工程で、土のような状態まで分解される仕組みに興味を持ち質問する姿や食べ物が肥料となって次の食べ物ができる循環に驚く様子が見られた（図3）。また、環境問題やコンポスト肥料について授業で学んだことがあるという子供もいた。施肥体験では、堆肥独特の香りが原料が食べ物であることを実感している様子であった。

写真1 説明している小学生
写真2 説明している小学生
写真3 説明している小学生

まとめ

今回の取組報告では、玉ねぎの環境負荷低減栽培について肥料製造・施肥までの段階の記載に終わったが、これから「温室効果ガスの削減貢献率5%以上」を目標として、GHG排出量を抑えるために化石燃料由来資材をなるべく使用しない生産を行う。そして星ラベルの獲得して子供たちに普及していきたい。単なる環境負荷低減栽培への挑戦ではなく、大学食堂や地域の障害者施設、イオンアースクラブなど多くの人を巻き込み、それぞれにメリットをもたらすような取り組みができたことと考える。みどり戦略学生チャレンジに応募したことで、小規模ではあるが環境への配慮と将来につながる持続可能な食料生産のために自分たちでどんなことができるのか考える機会となった。引き続き、環境負荷低減に取り組みとともに、地域や次世代に向けて主体的に働きかけていきたい。

第1回学生チャレンジ受賞校 (宮城県)



宮城県農業高等学校
(高校の部/農林水産大臣賞)



宮城大学
(大学・専門学校の部/グランプリ)

宮城県内における「みえるらべる」の取組

○ 「みえるらべる」は、温室効果ガスの削減や生物多様性保全への貢献度を星の数で表示し、消費者が環境に配慮した農産物を選びやすくするための取組です。

取組品目：米

取組者（団体）	市町村
①有限会社 山藤運輸	南三陸町
②JAみやぎ登米	登米市
③燕栗米生産組合（団体・個人）	大崎市
④有限会社 大郷グリーンファーマーズ	大郷町
⑤宮城県加美農業高等学校	色麻町
⑥株式会社 ミツハシ	角田市
⑦有限会社 ライスサービスたかはし	栗原市
⑧宮城県登米総合産業高等学校	登米市
⑨雁音農産開発有限会社	大崎市
⑩みやぎ産直米生産者協議会	角田市・大崎市・丸森町

①南三陸町：有限会社山藤運輸「めぐりん米」
「温室効果ガス削減」貢献率20パーセント以上の星3つ、「生物多様性保全」への取組で星3つを取得しています。



⑤色麻町：宮城県加美農業高等学校「加美農米」
「温室効果ガス削減」貢献率20パーセント以上の星3つ、「生物多様性保全」への取組で星3つを取得しています。



④大郷町：大郷グリーンファーマーズ「有機JAS米」
「温室効果ガス削減」貢献率20パーセント以上の星3つ、「生物多様性保全」への取組で星3つを取得しています。



取組品目：白ねぎ

取組者（団体）	市町村
①たかはし農園	石巻市

取組品目：いちご

取組者（団体）	市町村
①株式会社一莓一笑	仙台市・山元町

取組品目：りんご

取組者（団体）	市町村
①壽丸果樹園	白石市

①白石市：壽丸果樹園「りんごジュース」、「りんごチップス」
「温室効果ガス削減」貢献率20パーセント以上の星3つを取得しています。



みやぎの環境保全米と学校給食

- 「JAみやぎ登米」から始まった**環境保全米づくり**の運動は、平成19年全県的な運動となり、県や報道機関、プロスポーツ団体等と作る「**みやぎの環境保全米県民会議**」が発足。
- 環境保全米づくり全県運動は、着実に広がり、令和2年11月からは、**みやぎ米飯学校給食支援方式（県内35市町村中32市町村加入）**により、**環境保全米（ひとめぼれ1等米）**が生産された市町村に学校給食用米穀として提供されるなど、地産地消としてもほかに類を見ない取組となっています。
- 宮城県では、令和4年度から学校給食用のパンについて、県内産と北海道産の小麦を合わせた国産原料100%のパンを提供するなど学校給食における地産地消が進んでいます。

みやぎ米飯学校給食支援方式により 環境保全米を提供する市町村

仙台市、石巻市、塩竈市、
気仙沼市、白石市、名取市、
多賀城市、岩沼市、登米市、
東松島市、大崎市、富谷市、
蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、
村田町、柴田町、川崎町、
丸森町、亘理町、山元町、
松島町、七ヶ浜町、利府町、
大和町、大郷町、大衡村、
色麻町、涌谷町、美里町、
女川町、南三陸町



みやぎライシーレディが環境保全米をPR



登米市立西郷小学校の環境保全米の田植え学習



給食専用の環境保全米



仙台市の学校給食



松島町学校給食センター

注：未加入3市町（角田市、栗原市、加美町）については、支援方式開始以前に独自に地元産米穀を学校給食に提供している。

宮城県の農林水産物・食品輸出促進戦略

宮城県農林水産物・食品輸出促進戦略（2025年度版）の概要

策定趣旨	2022年（令和4年）3月に策定した『宮城県農林水産物・食品輸出促進戦略（2022年度版）』の計画期間満了に伴う再改定	17
位置付け	新・宮城の将来ビジョンが掲げる「富県躍進！PROGRESS Miyagi」の理念のもと、国際関連施策を総合的・計画的に推進する『みやぎ国際戦略プラン』の食品輸出分野に関する個別計画	
戦略期間	2025年（令和7年）度から2027年（令和9年）度までの3年間	
世界情勢（戦略の視点）	- 世界経済の動向 - 持続可能な社会に関する課題への対応 - 世界人口の見通し - 諸外国による県産農林水産物等への輸入規制に関する対応 - デジタル化の推進 - 農林水産分野及び食品分野の知的財産の侵害・海外流出への対応 現戦略期間：新型コロナウイルスの拡大や周辺諸国の禁輸処置など厳しい環境下にある中、輸出の取組には一定の成果あり	国 - 総人口の減少、国内市場の縮小は不可避 「農林水産物・食品輸出拡大実行戦略」を策定し、輸出目標（2025年に2兆円、30年に5兆円）達成に向けた取組を展開 県 - 国内市場が縮小する中、我が県の農林水産業や食品産業が発展していくためには、海外への販路開拓・拡大が重要 - 広く海外に目を向け、積極的なプロモーションや新しい商流の構築に向けた取組を展開

基本理念	みやぎの“おいしい”を世界に届ける			
基本方針	（1）輸出に取り組む事業者の増加と利益拡大 - 事業者の取組段階に応じたフォローアップ - マーケットイン型の輸出による継続的な受注	（2）販路拡大による輸出品目と輸出量の増加 - 日本産食品の輸入が少ない国・地域をリサーチ - ジェトロなど関係機関と連携し、代替市場を開拓	（3）持続的なバリューチェーンモデルの構築 - 生産・加工・流通、販売に関わる事業者の連携 - 輸出先国・地域に合わせた最適物流・物流の選定	（4）パートナーシップの充実 「オール東北」で食品輸出の取組を促進 - 仙台港や仙台空港から輸出する物流体制を構築

	現状／成果	課題	取組の方向性	事業展開（イメージ）
①水産物	○アジアを中心に、バイヤー招聘や県産品の提案会、産地視察などのプロモーションを継続的に実施。 ○震災後の輸入規制で販路が縮小しているホヤの需要創出や、カキの販路拡大などを展開。	○福島原発事故に伴う処理水の海洋放出等の影響で、周辺国等の水産物の輸入規制に直面。 ○新たな販路開拓のため、海外市場のニーズを捉えたマーケットイン型の商品開発が必要。	○包括連携協定を締結した株式会社PPIHのネットワークや店舗網、関係機関との連携強化により代替市場を開拓し、販路開拓を推進。 ○県内企業への伴走型支援を継続。	◎新市場への挑戦 R6 メキシコ市場開拓
②米	○J Aグループと連携した大ロット輸出のほか、中食、外食需要に対応する小ロットの輸出を支援。 ○県産銘柄米のほか、玄米食向け「金のいぶき」の販路開拓、バックご飯の増産支援などを展開。	○毎年10万トン国内の消費量が減少していく中、海外市場に積極的に進出していくことは重要。 ○一方、輸出先では価格競争が激しく、銘柄米の輸出は他県でも推進する動きが活発。	○J A（全農）との協力・連携により大口のリエストに対応できる輸出体制を構築。 ○民間企業や関係団体とのパートナーシップによる海外ニーズに応じたマッチングの実施。	◎協働と販路共創 R5 THAIFEX（バンコク）出展 わきたつ東北戦略会議（東北経済連合会）
③牛肉	○仙台牛の取引を希望する国内外の事業者からの相談に応じ、また、部位別の商品提案を実施。 ○日本酒の販路開拓（MIYAGI STYLE）から派生して、日本酒と一緒に楽しむ仙台牛の輸出が実現。	○輸出量が回復する一方、生産量に占める割合は約1%であり、輸出の可能性は存在。 ○海外市場が求める衛生基準に適合した食肉処理施設からの輸出実績の積み上げが必要。	○一頭買いの推奨のほか、プロモーションを通じた認知度向上により、輸出を拡大。 ○仙台牛銘柄推進協議会など関係機関と連携し、仙台牛の認定施設等からの輸出増加を実施。	◎潜在需要の喚起 R6 ハンズオン支援事業（アジア） R6 日本酒の販路開拓・拡大（欧州）
④いちご	○いちご生産者と輸出事業者、海外現地販売店（ドン・キホーテ）が連携し、定期・定量輸出を開始。 ○タイ、香港、シンガポール、マレーシア、台湾に拡大し、2024年4月にはグアムへの初輸出が実現。	○県が目指している「いちご100億円産地」の育成に、輸出の面から貢献することが必要。 ○海外市場のニーズ把握しながら、輸出に取り組む生産者と輸出量の拡充を図ることが重要。	○生産者の増加に向けて、勉強会や講習会等を開催し、いちご輸出の将来展望を共有。 ○構築したバリューチェーンの改善と強化を支援し、「いちごの輸出1億円」を早期に実現。	◎連携協定の実行 R6 ハンズオン支援事業（いちご） （グアムへの初輸出）
⑤日本酒	○日本酒の特徴的な「香り」や「味」を分析し、現地の食事とのペアリングを提案（MIYAGI STYLE）。 ○主に欧州のソムリエなどを対象にしたセミナー、商談会を開催し、理解の醸成と継続的取引を実現。	○酒蔵の多くは海外への一貫した供給体制を持たないなど、個別のプロモーションには限界。 ○複数の酒蔵が連携し、適切に輸送、保管、供給する仕組みを構築していくことが必要。	○欧州のパートナー企業との関係強化を中心に、日本酒の情報発信と取引拡大（定着）を促進。 ○海外事務所をはじめとする複数の交流基盤を活用し、重層的に海外市場にアプローチ。	◎ファンへの浸透 R6 日本酒の販路開拓・拡大（欧州） （スペイン市場への挑戦）
⑥さつまいも	○J A全農みやぎが、仙台港から県産さつまいもの継続輸出を実施。品質保持と輸送日数の短縮を両立。 ○仙台港からの海上輸送により、香港に輸出するバリューチェーンを構築。	○さつまいもの作付面積は近年急増し、産地化を図る取組が推進。 ○海上輸送中の腐敗率の低減に向けた対策と、輸出に必要なキュアリング施設が不足。	○香港など海外での高い評価により、輸出量の拡大のほか、新たな産地の形成に期待。 ○輸出先国・地域や現地販売先の需要に応じた商品開発に取り組み、輸出を拡大。	◎輸出産地の形成 R6 大規模輸出産地モデル形成等支援事業
⑦その他	○ジェトロ等の支援で香港へ販路を拓いた鶏卵の輸出が定着し、取引先の要望に応え、新たに米の輸出を開始。仙台港を利用。 ○J A全農みやぎの「仙台いちご®」が、厳しい残留農薬基準値をクリアし、仙台空港から台湾向けの輸出を実現。 ○宮城県産の梨と山形県産のぶどうを混載し、シンガポール向けに海上輸送による品質保持実証試験を実施。	○海外のニーズに応えるマーケットイン型の輸出には、個々の事業者の取組に限界が存在。 ○「物流の2024年問題」や「カーボンニュートラル」を考慮した最適物流を考えることが必要。 ○品質の改善、輸送中の品質維持や物流コストの低減等に継続的に取り組むことが重要。	○国や民間企業、自治体、大学などの連携強化や、デジタルマーケティングを推進。 ○望ましい輸送方法を具体化し、航空便や海上輸送（コンテナ便）の特性及び可能性を提示。 ○東北産食品の混載により仙台港や仙台空港から輸出する物流体制の構築。	◎パートナーシップの充実 R5 仙台空港（空輸）の利用

目標指標	2022～2024年度実績計／見込	2025年度目標	2026年度目標	2027年度目標	2025～2027年度目標計	《比較増減》	次期戦略期間においても、気候変動の影響など不測の事態は起こり得るが、現戦略で取り組む民間企業等との連携、新市場の開拓、県境を越えた連携、物流の検証などの成果を活かし、協働するパートナーを増やしつつ、一層の輸出促進を図る。
(1) 海外販路開拓相談	880 件	325 件	375 件	375 件	1,050 件	+ 170 件	
(2) 海外ビジネスマッチング支援	175 件	60 件	70 件	80 件	210 件	+ 35 件	
(3) 輸出に取り組む県内企業の数	80 社	90 社	100 社	110 社	210 社	+ 30 社	
(4) 輸出品目数（延べ数）	870 商品	350 商品	400 商品	450 商品	1,200 商品	+ 330 商品	
(5) 輸出総額	19 億円	8 億円	8.4 億円	8.6 億円	25 億円	+ 6 億円	
(6) 輸出先国・地域数	15か国・地域	16か国・地域	17か国・地域	18か国・地域	18か国・地域	+ 3 国・地域	
(7) 生産・流通等の事業者連携によるバリューチェーン構築	3 件	1 件	1 件	1 件	3 件	+ 0 件	
(8) 東北各県と連携した取組	4 件	2 件	2 件	2 件	6 件	+ 2 件	

農林水産物・食品輸出プロジェクト（GFP）

- **GFP**とは、農林水産省が推進する**日本の農林水産物・食品輸出プロジェクト**です。
- 農林水産物・食品の輸出を意欲的に取り組もうとする生産者・事業者等のサポートと連携を図る「**GFPコミュニティサイト**」を立ち上げ、当該サイトに登録した者を対象に、農林水産省が輸出診断を行うことにより、サポートを実施します。
- 令和7年3月末現在、GFP全国登録者数は10,287件、うち宮城県は229件です。
- また、**輸出向けに生産・流通を転機とする大規模輸出産地の形成**のため、都道府県やJA、地域商社等が連携した体制整備を支援するほか（大規模輸出産地モデル形成等支援事業）、海外の規制やニーズに対して継続的に輸出に取り組み、**輸出取組の手本となる産地**を「**フラッグシップ輸出産地**」として認定しており、宮城県では米1産地が認定を受けています。



Global Farmers / Fishermen / Foresters / Food Manufacturers Project

農林漁業者・食品事業者へのサービス

- ・ 輸出診断が無料
- ・ 輸出商社の「商品リクエスト情報」を共有
- ・ 輸出希望商品を輸出商社に紹介
- ・ 輸出のための産地づくりを計画策定から支援
- ・ メンバー同士の交流イベントへの参加



輸出商社・バイヤー・物流企業へのサービス

- ・ 生産者・製造業者が作成する「商品シート」を共有
- ・ 商品リクエストを全国の生産者・製造業者へ発信可能
- ・ メンバー同士の交流イベントへの参加



大規模輸出産地モデル形成等支援事業（令和6年度、令和7年度）

実施主体	参画事業者	品目	対象地域
宮城県JA農産物輸出促進協議会	全国農業協同組合連合会宮城県本部等	さつまいも	香港、台湾ほか



注：令和6年度より事業名変更（旧名称：GFPグローバル産地づくり推進事業、3年間事業継続可能）

フラッグシップ輸出産地

米	みやぎ登米農業協同組合	登米市
牛肉	和牛マスター輸出拡大コンソーシアム（兵庫県神戸市）	白石市、南三陸町、大崎市、登米市、石巻市

- **加工食品クラスター**とは、個社単独では難しい資金面・人的面の課題やノウハウ不足等を克服するため、**複数の食品製造事業者が連携して輸出拡大に取り組む体制**を言います。
- 複数分目、単一品目、地域単位、全国単位など地域の事業者の実績に応じ様々な団体の類型があり、事務局は構成員の食品製造業者、行政機関及び地域商社などが担っています。

<連携して輸出拡大に取り組む活動事例>

共同での海外プロモーション

単独での海外展示会への参加はハードルが高い

- 共同での国内外の見本市や展示会への参加
- 海外バイヤーの国内招聘、製造現場視察
- 商品のテストマーケティング

ブランドの確立に向けた取組

ブランド力や国際競争力が不足

- 品目や地域、商品ブランドの構築
- GI、地域団体商標等の取得
- 共同での商品開発、パッケージ作成

共同輸送・商流構築

個々の事業者が小ロットでバラバラに輸出し、物流コストが割高

- コンテナにおける混載、共同輸送
- 地域が一体となった地方空港・港湾の利用
- 販路開拓に向けた連携（取引先の紹介等）

海外規制情報等の共有

単独での海外ニーズ調査は困難であり、各種規制情報等も把握できない

- 海外ニーズ、輸出ノウハウ、経験等の情報共有
- 規制・条件（添加物、包材等）の情報共有
- 支援機関への相談や支援策の共同活用

<宮城県内の組成クラスター>

①	宮城県味噌醤油工業協同組合	味噌
②	三陸水産加工品輸出拡大協議会	水産加工品
③	東北・食文化輸出推進事業協同組合	複数業種
④	石巻食品輸出振興協議会	複数業種

宮城県のGI登録の現状

- **GI制度**は、その地域ならではの自然的、人文的、社会的な要因・環境の中で長年育まれてきた品質、社会的評価等の特性を有する**産品の名称**を、地域の**知的財産**として**保護**するもの。外国との相互保護や模倣品対策の充実により、海外においても保護。
- ビジネスにおいては、地域と結びついた産品の品質、製法、評判、ものがたりといった潜在的な魅力や強みを見える化し、国による登録やGIマークと相まって、効果的・効率的なアピール、取引における説明や証明、需要者の信頼の獲得を容易にするツール。

①みやぎサーモン（石巻市、気仙沼市、女川町、南三陸町）



<宮城県内の登録及び公示一覧>



①



みやぎサーモン
（石巻市、女川町、南三陸町、気仙沼市）
みやぎ銀ざけ振興協会

②



岩出山凍り豆腐（大崎市岩出山）
新みやぎ農業協同組合

③



河北せり（石巻市（旧桃生郡河北町））
河北せり振興協議会

④

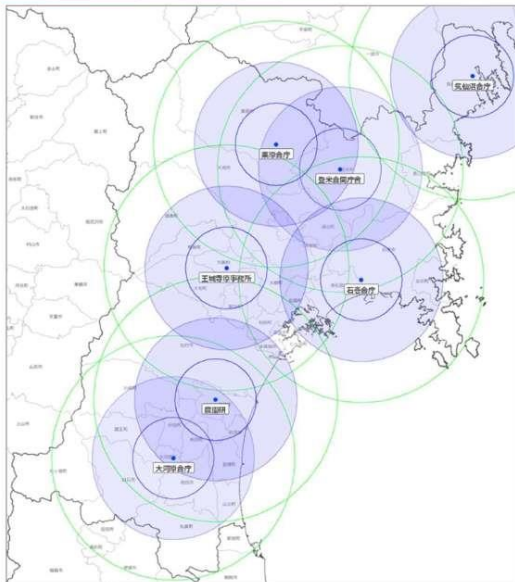


仙台せり
（名取市（旧増田町）、仙台市太白区）
仙台せり振興協議会

* 令和7年3月18日現在の宮城県の状況：登録産品は4産品（全国で161産品）

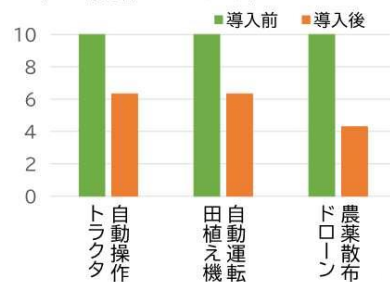
宮城県のスマート農業の推進

宮城県RTKシステム 基地局の整備



- ・R4年度整備、R5年度～運用
- ・2-3cmの精度(20km以内)で自動操舵・飛行が可能
- ・198者・269IDを発行(11月末)
- ・法人を中心に、複数台利用が増加

「RTK導入後の作業負担の度合」
(RTK利用者へのアンケート)



露地野菜のRTK-機械化一貫体系の検証

露地野菜の排水対策・耕うん・播種・防除・収穫などをRTKシステムを活用して行い、高精度な機械化一貫体系の確立と、スマート農業の効果を検証

【主な品目】

たまねぎ、えだまめ、ばれいしょ、ブロッコリー、はくさい 等

【技術の特徴】

- RTKの活用により、機械作業の効率化、省力化
- 精度の高い畝立て作業により、その後の管理精度を向上
- 直播栽培を導入し、省力・低コスト化を実証
- 計画的な機械利用により機械化一貫体系の確立



カットブレーカーminiでの排水対策



タマネギの畝立て直播作業



ドローンによるえだまめの防除作業



えだまめの収穫作業

【期待される効果】

- ・RTKシステムを活用した、大規模露地園芸の新たな栽培-作業体系が確立
- ・水田フル活用のための高収益作物の導入促進、収量・品質の向上

革新重点プロジェクトによる技術実証

スマート農業技術の導入効果を明確にし、普及拡大に向けたメリットを整理

【実証① RTK×大容量ブーム】

- ① RTKによる自動操舵
- ② 大容量ブームによる高速散布
- ③ 位置情報とセクションコントロールによる重複散布の回避



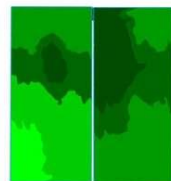
トラクターマウント型大容量ブームスプレーヤー

【結果】

通常の散布作業(ハイクリブーム)よりも作業時間を半分に短縮

【実証② RTK×ザルビオ×可変施肥】

- ① ザルビオFMで可変施肥マップを作成
- ② RTK位置情報による高精度な散布
- ③ セクションコントロールによる重複散布の回避



ザルビオの地力マップ



可変施肥機

【結果】

可変施肥ほ場では、後半の生育(生育マップ)が均一になったが・・・

アグリテックアドバイザー派遣

スマート農業技術の導入や効果的な活用に向けた課題解決に専門家を派遣して支援

アドバイザー：農業機械メーカーやICT企業、先進的農業者 等

助言内容：スマート農業技術の導入や効果的な活用・改善に関すること
個別農業者への派遣、地域単位の研修会

利用方法：管内の農業改良普及センターが窓口（同時に普及員の資質向上も図る）

活用事例

新規導入

○散布用ドローンで、RTKを使った自動飛行を導入したい



○ほ場登録や自動飛行の設定、飛行時の安全性の確保などを指導。
他の農業者を集め、自動飛行のデモを実施。
【アドバイザー】
ドローン販売業者 技術担当者等

活用・改善

○生育診断システムを導入したので、若手社員に効果的に活用してもらいたい



○生育診断システムによる作物の生育状況の共有化、病害虫アラート、可変施肥などの活用方法を支援。
【アドバイザー】
ICTメーカー 技術担当者等

株式会社めぐいと（東松島市）

- ―自動操舵システム、ドローン等のスマート農業技術を活用
- ―乾田直播と可変施肥で省力化やコスト低減を図る。
- ―水稻・麦・大豆・加工用ばれいしょで3年ブロックローテーション、1年2作体系を取り入れた安定的な農業経営
- ―カルビーポテト株式会社と契約栽培のほか、令和7年産からは米の輸出も視野に。



土井取締役副社長（左）と
川村代表取締役（右）



加工用ばれいしょの収穫

株式会社アグリ東北（栗原市）

- ―直進アシスト機能付きトラクタや食味・収量センサ付きコンバインと営農管理システムを連携
- ―圃場をメッシュ化し情報を付加することで地力状態を見る化し、次年度の作業効率化等経営改善に役立てている。
- ―作業計画等で社員やパート同士のコミュニケーションが活性化、経験の浅い人も圃場ですぐに戦力になれる点が魅力



作業進捗状態がモニターに映し出され、
作業の「見える化」ができます
(赤枠が作業未完了)



収集したほ場毎のデータ分析と評価も
行えます

七ヶ宿町

- ―七ヶ宿町では、町全体でスマート農業システムの導入を推進。庁舎の屋上にRTK基地局を設置し令和5年度から運用開始。
- ―RTK対応の自動操舵システムを取り付けたトラクターや田植機、ドローンの活用により、農作業の効率化を図る。



令和元年度に導入したGPS直進アシスト田植機



ドローンのデモ飛行の様子

株式会社舞台ファーム 「美里グリーンベース」（美里町）

- ―太陽光とLEDを活用する植物工場において、AIを活用した環境制御と播種から栽培まで全自動化を行い、品質維持と効率的な生産を実現。
- ―大手コンビニエンスストアやスーパー・外食等へ生食用カット野菜を提供。



太陽光型植物工場「美里グリーンベース」



ロボットアームで作業を自動化

「自動操舵トラクタ（直線アシスト）」＋「直播栽培体系への移行（直播適性の高い品種の導入）」

<取組概要>

自動操舵トラクタ（直線アシスト）及び播種機を活用するとともに、従来の生産方式（移植栽培）から乾田直播栽培体系への移行（直播適性の高い品種の導入等）により農作業時間を削減することによって、栽培面積の拡大を図りつつ、単位面積あたりの省力化を実現。

<申請者>

株式会社 美田園ファーム__宮城県名取市

<対象品目>

水稻

<計画の実施期間>

5年間

<生産方式革新事業活動のイメージ 等>



自動操舵機能を活用するラジコンヘリ



播種機を装着した自動操舵トラクタ

認定証授与式

（株）美田園ファーム（宮城県名取市）は、自動操舵トラクタ等を活用しつつ、直播栽培を拡大しながら収益性を向上させる取組を行う内容の生産方式革新実施計画の認定を受けました。

東北農政局では、6月20日に（株）美田園ファームに対して認定証の授与式を行いました。



宮城県のつなぐ棚田遺産と指定棚田地域

- **棚田地域**は、農産物の供給にとどまらず、**国土の保全、水源の涵養、生物の多様性の確保その他の自然環境の保全、良好な景観の形成、伝統文化の継承等の多面にわたる機能**を有しています。他方で、棚田の保全には、その地形的な不利性等から多大なコストを要するのが実情であり、農業の担い手の減少、高齢化の進展もあいまって、**棚田が荒廃の危機に直面**している地域もあります。
- 農林水産省では、平成11年に**つなぐ棚田遺産**として優れた棚田134地区を認定したほか、棚田地域振興法（令和元年8月施行）に基づき、**指定した棚田地域の振興のための支援**を実施しています。

指定棚田地域

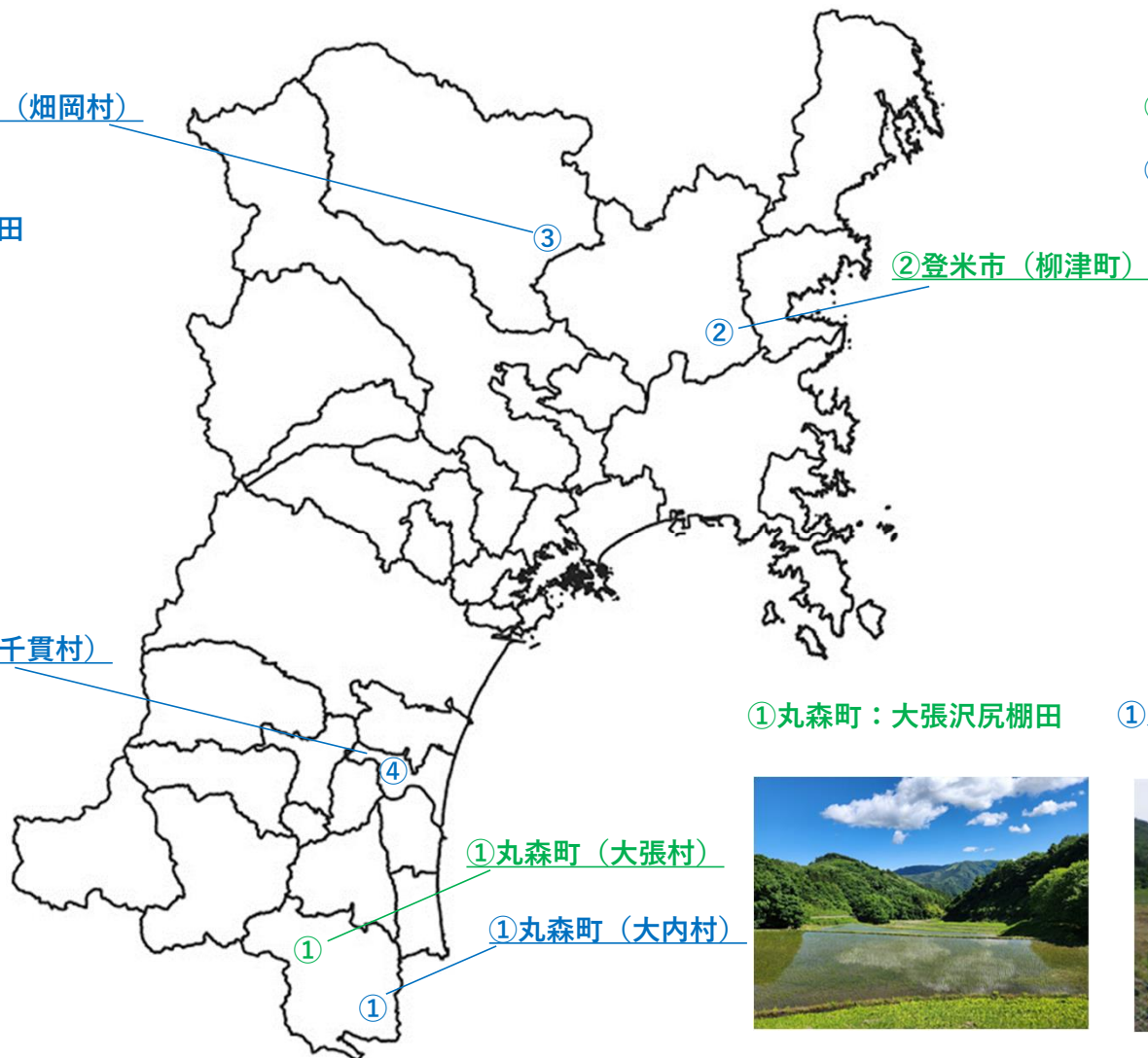
③栗原市：若柳蓬田地域の棚田
(令和5年12月25日指定)



③栗原市（畑岡村）

④岩沼市（千貫村）

④岩沼市：志賀地域の棚田
(令和5年12月25日指定)



つなぐ棚田遺産認定棚田

②登米市：津山町沢田地区の棚田

②登米市：津山町沢田地区の棚田
(令和4年8月29日指定)



②登米市（柳津町）

①丸森町：大張沢尻棚田



①丸森町：大内青葉棚田
(令和4年2月9日指定)



①丸森町（大張村）

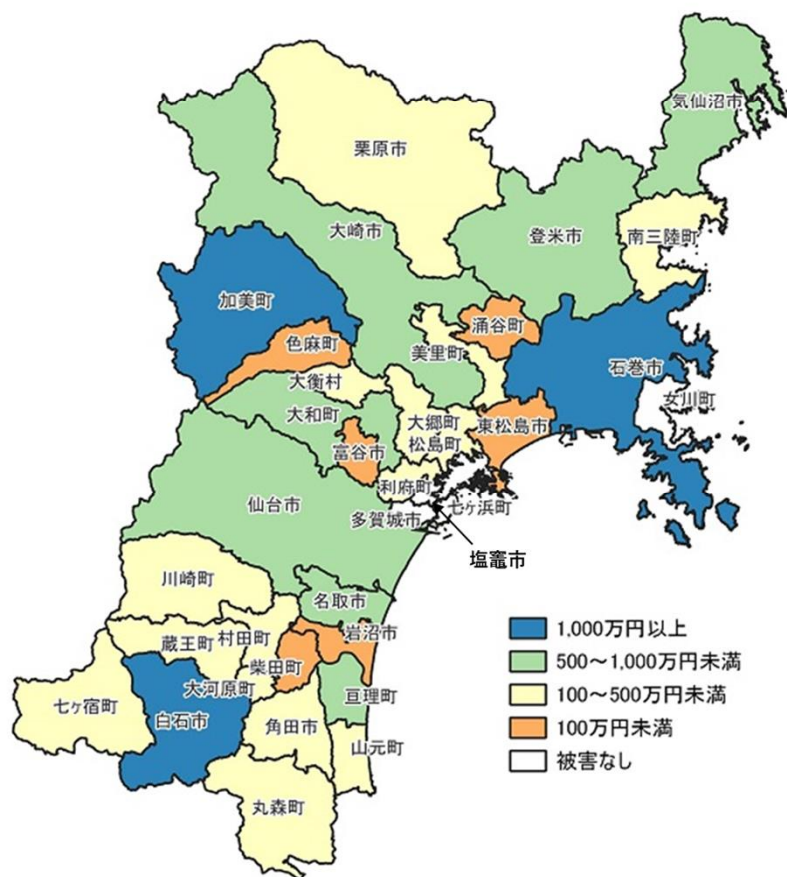
①丸森町（大内村）

宮城県における野生鳥獣による農作物被害とジビエの利用状況

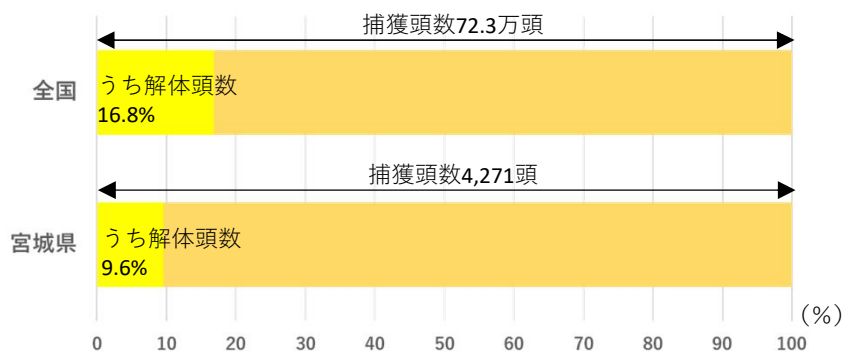
宮城県の野生鳥獣による農作物被害額

(単位：百万円)

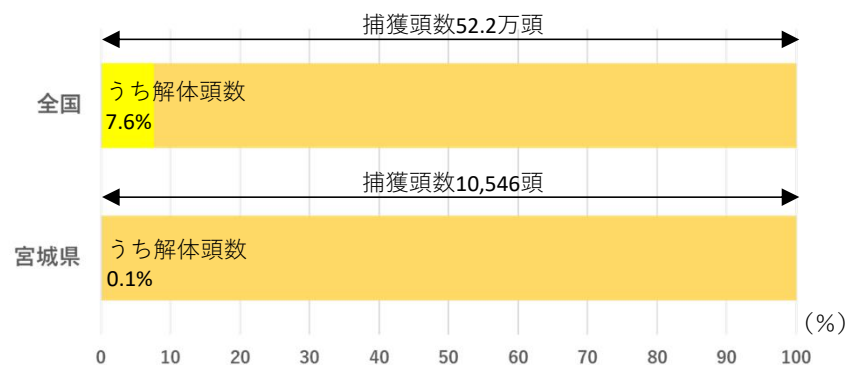
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
被害額	157	194	173	154	132
ニホンジカ	23	17	32	20	22
イノシシ	80	105	95	80	63



シカの解体頭数割合（令和5年度）



イノシシの解体頭数割合（令和5年度）



新たな食文化の
創出「大崎ジビエ」
を東北から！
ー宮城県・大崎市ー



大崎市内の道の駅で販売され
ているジビエ（イノシシ）

牡鹿半島で狩猟
されたシカをジビ
エとして活用
ー宮城県石巻市ー



シカ肉のポワレ（石巻市）

出典：「農作物被害状況調査結果」（宮城県）
「捕獲数及び被害等の状況等」（環境省）
「野生鳥獣資源利用実態調査」（農林水産省）

宮城県の6次産業化に取り組む農林漁業者

- 農林漁業の6次産業化とは、**農林漁業者（1次産業）**と2次産業（工業・製造業）・3次産業（販売・サービス業）との総合的かつ一体的な推進を図り、農山漁村の豊かな地域資源を活用した**新たな付加価値を生み出す取組**です。
- 宮城県内では、6次産業化・地産地消費に基づく総合計画化事業計画の認定事業者が、**82件**あります。

市町村別の認定事業者件数

（令和7年3月末現在）

市町村	総合化 事業計画認定数	うち 農畜産	うち 林産	うち 水産
仙台市	12	11	1	
石巻市	17	7		10
塩竈市	1			1
白石市	2	2		
名取市	1	1		
岩沼市	2	2		
登米市	14	14		
栗原市	4	3	1	
東松島市	2	2		
大崎市	9	9		
蔵王町	5	4		1
七ヶ宿町	1	1		
亶理町	2	1		1
山元町	2	2		
大和町	2	2		
加美町	1	1		
涌谷町	2	2		
南三陸町	3	2		1
県計	82	66	2	14

【大崎市】

- ③ 農業生産法人有限会社ダイアファーム
- ⑥ アグリ古川農産株式会社
- ① いちご倶楽部株式会社
- ① 株式会社一ノ蔵
- ④ 有限会社蕪栗千葉農場
- ① デリシャスファーム株式会社
- ② 農業生産法人有限会社ヒーロー
- ① 浦上 和子
- ① 株式会社AGRI PRIME

【栗原市】

- ③ 関村 清幸
- ① 株式会社吉尾ファーム
- ① 株式会社さちwemalu
- ① NPO法人フォレストサイクル元樹

【登米市】

- ① 農業生産法人株式会社オジマスカイサービス
- ① 芳泉農園
- ① 有限会社おっとちグリーンステーション
- ① 千葉正畜産株式会社
- ③ 有限会社久保畜産
- ③ 株式会社縄文ファーム
- ① 農業生産法人株式会社石ノ森農場
- ③ 農業生産法人有限会社伊豆沼農産
- ⑤ 有限会社PFTサービス
- ① 株式会社近藤農産
- ① 株式会社カレントセラー
- ② 株式会社サンフルーツ・ファーム
- ① 株式会社ワンス
- ① 米・米ファーム合同会社

【南三陸町】

- ① 宮城県漁業協同組合志津川支所
- ③ 自然卵農園株式会社
- ① 株式会社小野花匠園

【涌谷町】

- ①、② 有限会社氏家農園
- ① 株式会社佐藤園芸 佐藤 光一

【東松島市】

- ① 有限会社アグリードなるせ
- ① 株式会社イグナルファーム

【塩竈市】

- ① 有限会社千葉水産

【石巻市】

- ① 株式会社海遊
- ① 宮末永九兵衛商店株式会社
- ② 株式会社アルコパレーノファーム
- ③、⑤ 有限会社うしちゃんファーム
- ② 桃浦かき生産者合同会社
- ① 株式会社鶴の助
- ① 齊藤 伊平
- ① 阿部 政志
- ① 株式会社深谷農産
- ① 株式会社鹿島
- ② 豊嶋 祐二
- ② 西條 幸正
- ② 株式会社吉田ファーム
- ① 三浦 良彦
- ① 及川 雄一郎
- ③ 千葉 浩希
- ④ 株式会社田伝むし

【加美町】

- ① 株式会社恒和クリエイト

【大和町】

- ③ あさひな農業協同組合
- ① 農業生産法人東穀ライス匠株式会社

【蔵王町】

- ④ 農業生産法人エコファーム蔵王株式会社
- ⑤ 株式会社蔵王苑、有限会社鍾水建設
- ① 有限会社蔵王ブルーベリー農園
- ③ 株式会社アイ・アディールクリエーション
- ① 有限会社蔵王鶏園

【七ヶ宿町】

- ② 有限会社杜のいちご

【白石市】

- ③ 有限会社竹鶏ファーム
- ② 有限会社蔵王グリーンファーム

【名取市】

- 株式会社エヌ・ケー・エフ

【岩沼市】

- ④ 株式会社フレッシュファーム
- ① 有限会社やさい工房八巻

【亶理町】

- ② 株式会社亶理ファーム
- ① あらはま海苔合同会社

【山元町】

- ② 農業生産法人株式会社GRA
- ① やまうち農園株式会社

【仙台市】

- ③ 農事組合法人仙台イーストカントリー
- ③ たんぼ農産加工くらぶ
- ① 株式会社舞台ファーム
- ① 株式会社大滝自然農園
- ① 株式会社耕
- ① 株式会社きずなファーム
- ① 株式会社荒浜アグリパートナーズ
- ① マリスファーム 高山 真理子
- ① 株式会社みらいファームやまと
- ① 株式会社佐々木産業営農サービス
- ▲ 株式会社ガイア環境技術研究所

【所在地】

- 農林漁業者 ○ 付き数字は総合化事業計画の事業内容の区分
- ▲ 研究開発事業者
- ファンド出資案件
- ①：加工・直売、②：加工、③：加工・直売・レストラン、④：直売、⑤：加工・直売・輸出、⑥：レストラン、⑦：輸出

資料に関するお問合せ先

農林水産省東北農政局
宮城県拠点地方参事官室

〒980-0014

宮城県仙台市青葉区本町3丁目3番1号

仙台合同庁舎A棟6階

TEL:022-263-1111（代表）